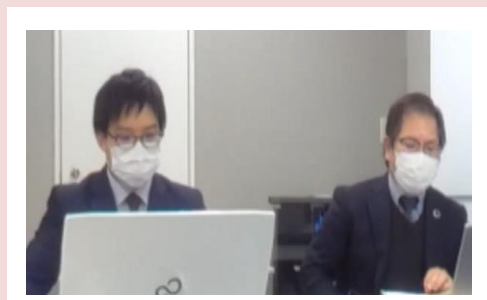


2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義「協同組合論」



<第13回(ZOOM)>

### シンポジウム「安心してくらせる地域づくりと生協」

日笠 博幸／生活協同組合コープみえ 地域政策担当次長

大田 卓／みえ医療福祉生活協同組合 検診センター主任

第13回（1月18日）：受講59名（市民開放授業一般受講者等を含む）

- ・三重県の西部に位置する伊賀地域は、関西地方の文化的影響を強く受けている。伊賀市は城下町の面影が残り、名張市は大阪などのベッドタウンとして発展してきた経緯がある。2025年には高齢化率が35%を超え孤独死や、引きこもりなどが懸念される。
- ・組合員が生協の活動に参加する形はいくつかある。その一つに組合員活動への参加がある。組合員が自らの問題意識に基づいて仲間をつくり自主的に活動することである。活動への参加は、組合員の自主的が前提である。社会的課題への取り組みは、生協だけでなく地域や他団体と共にすすめることが大事である。
- ・2012年に地域で活動する組合員組織「エリア会」を立ち上げた。エリア会は、自主的・自発的に参加した組合員と役職員で構成され、地域の福祉政策や、消費者問題・消費者行政への取り組みや考え方を具体化している。この間、地域の居場所づくりを目的としてコープカフェ「茶楽」や、消費被害防止の啓発活動「ペープサート」等を実施している。活動を通して、地域の見守り活動や行政との災害支援協定、地域ネットワークへの参加等のつながりがひろがった。高齢化がすすむ伊賀地域では、高齢者が安心してくらせるよう一人ひとりの状況に応じた取り組みが求められている。
- ・医療、介護と地域が一体になって暮らしを支える。それは、他の病院や介護事業所ではできない取り組みである。組合員や地域住民が参加することで、地域まるごとの健康づくりをすすめている。
- ・地域社会には問題が山積している。近所付き合いや、独居不安、認知症、介護疲れ、交通手段、子どもの発達、教育、貧困等がある。人は一人では生きられない。優しさや思いやりが循環するような場の中で助け合い、支え合うことによって、社会や共同体をつくってきた。しかし、コロナ禍で一人ひとりが分断されやすくなっている。
- ・有償ボランティア「いきいきくらしの会」は、信頼感を大切に暮らしの困りごとを組合員どうしで支え合う活動である。定期的な情報発信と組合員への訪問を通してニーズをつかむようにしている。また、送迎ボランティアの活動は、公共交通機関や自力で病院や診療所への通院が不自由な組合員を、組合員が乗り合い送迎する活動である。それぞれの組合員が喜びあえる活動である。誰かのためにと始めて始めた活動が、自分の生きがいや居場所になっていく。一人ひとりの心や身体の健康や暮らしを考えることは、次の活動や社会のことを考えることになる。
- ・コロナ禍だからこそ組合員や地域の方々と手を取り合いながら「たすけあい」を大切に活動がすすむよう、その役割を發揮していきたい。

### 第13回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・私は、今回の講義を聞いて既存の生協の活動だけではなくて、社会的なテーマの中で自分のやってみたいことを組合員として提案して実際に活動することが生協につながるということを知り、これなら多くの人が生協の活動を身近なものに感じられ、組合員としての自覚を持ちやすくなると思いました。なぜなら、自分で活動内容を考えることで、モチベーションの向上につながったり、満足感が生まれやすくなると思ったからです。また、地域活動に自分が関わると考えたときに、地域の人々との関わりの有無や頻度で地域活動への参加のしやすさが違うと考えました。なので、地域活動にみんなが参加しやすくなるために、日常的に地域で清掃活動などをして、地域のつながりを強めることが大切だと考えました。そのために、私は地域のボランティア活動などに積極的に参加するよう行動しようと思いました。
- ・「誰かがやってくれているからいいや」ではなく自分もやる側に関わることができるということを知り、ちゃんと考えなくてはならないと思いました。私は一歩踏み出すのに心配してしまったり躊躇ってしまうことが多いのですが、しっかり考えようと思いました。
- ・最近になって、やっと地域活動にみずから参加し、協力しあうことの大事さを理解した。そのため、今日の講義では、実際に自分がこの活動に参加したら、どのようなことができるのか、またどのようなことが学べるかの観点で、見るのができたと思う。特に、伊賀エリア会の消費者被害防止の啓蒙活動の人形劇は、私の興味を大きく引きました。高齢化と情報技術の複雑化に伴い、これから消費者被害防止の啓蒙活動の意義はますます大きくなっていくと思います。その中で、この活動は人形劇という理解しやすい活動で、人々に働きかけている点で、非常に効果的だと感じました。自分が実際にやろうとすると、若干不安な部分があるものの、やったら必ず楽しいだろうし、充足感を感じることが予想されるため、活動を行う側も、受ける側も、どちらにとっても利益しかない点で、非常に魅力的です。自分がこのような取り組みができるものはないかと探して見たくなりました。
- ・地域活動に関わるために生協からの参加の要請や、活動内容を知ってから参加であるのが一般的であるという風に考えていました。しかし、今回お話を伺い、組合員が自ら自発的にこういうことをしたいという声から実際の活動につながるというケースがあるということを知り、私は地域に関わることにとても受け身であるということを感じました。組合員であることを自覚する機会がないという考え方ではなく、組合員であるという自覚を持ち積極的に活動に参加することや、自ら情報を得て活動に参加・取り組んでいくことが大切なのだと感じました。
- ・組合員の活動や生の声を聞いて、コロナウイルスの状況下新たな様式が作られた中、普通の日常がどれだけ価値があったのかということがシンポジウムやプレゼンの内容を聞いて分かりました。高齢者の方たちが配達やサロンを楽しみにしている。そのような状況を見て、協同組合の活動が人の心に寄り添っていたのだなと考えさせられる授業でした。これからは自分が高齢者の方たちの心に寄り添っていきたくと考えさせられたので、ボランティアなど地域の人々の役に立つことができたらと思いました。
- ・今回のシンポジウムの内容を踏まえて、特に印象に残ったのは、将来的に組合の活動を担っていく、若い世代の後継者が不足しているということだった。実際に、今回のように組合で働く人たちの話を聞くと、どのような活動内容なのか実際に体験してみたいと思うが、講義を受けていない人は、組合の活動内容を知らない、そもそも組合の存在自体を知らない人も多くいると思う。より多くの若い世代が、組合の活動に理解を示し、活動してみたいと思うには、もっと組合と学生(若い世代)との交流の場を増やすべきであると思った。

- ・生協は、ただ単に地域をより良くする取り組みをたくさん行うというわけではなく、組合員や地域の人々に寄り添い、多団体とも協力の元、その地域にあった、そして地域のひとりひとりにあった、温かい取り組みが大切だと理解した。この一人ひとりに対して対応しようとする姿勢や、組合員同士の助け合いは、このコロナ禍で孤独を感じている人々にとっては、とてもありがたいものであると思うし、人々の不安も緩和されると思った。特に、地域の人たちが集まってお話しできる居場所づくりや、送迎ボランティアは、日常の中で、孤独感を取り払い、人との関わりを感じられる場としてとても有効だと感じた。しかし、やはりコロナ禍だとこのような直接的な関わり合いは難しいので、感染リスクの低い方法についても考えていかなければいけないと感じた。例えば、ネット環境がいいところでは、オンラインでお話しできる機会を作ったり、ネット環境が十分でなければ、お手紙やメール、電話等で定期的かつ積極的に会話を行ったりするなど、人とつながっている安心を自宅でも感じてもらうことができるようにしても良いのではないかと感じた。このように、今回のシンポジウムを通して、今どのようにして自分が地域活動に関わるということを考えてみたが、私自身、大学生協にしか所属していないため、自分の住んでいる地域活動に関わるのは少し難しい上に、地域に関する知識や情報が少ないのが現状である。しかし、私の住んでいる地域のボランティア活動等に参加することは可能だと思うので、そのボランティア活動を通して地域とつながり、また、大学生協についても組合員としてできることは何かを考えたり、実際に行動してみて、そこからまた次の段階への地域活動へとつなげていきたいと思う。
- ・協同組合による地域での活動が高齢化しているというお話を受け、自分たちのような若い世代ももっと積極的に参加していくべきだと感じた。協同組合について、サービスを提供してくれるものだという捉え方から、自分たちの相互助け合いのための組織であるという認識に改めて捉え直し、協同組合の一員として様々な活動に協力していきたいと感じた。そのためにも、どのような活動をしているかといったことから勉強していきたい。
- ・コープみえ伊賀地域組合員の活動の話を聞いて、伊賀がとても素敵な町であるということがわかりました。私の地元でもコープ宅配が行われており、そこでコミュニティができあがり、世間話や子育ての話等ができてとても良い環境だなと思いました。また、伊賀での紹介でお年寄りの方の家までの宅配サービスもしており、免許返納や足腰が不自由な方にとって便利だなと思いました。また、伊賀地域の生協の生協だけで完結しない地域の連携を作っていくという意識が大切であるなと思いました。生協を軸に買い物等の日常生活が困難である高齢者の方のサポートや子育てで不安や悩みを抱えているお母さん方の気持ちが少しでも楽になることは大切なことです。近年、近所づきあいの観念は薄れつつあります。このことを解決し、再びコミュニティを形成することによって、より良い町作りに繋がるのではないかと思います。
- ・生協の組合員組織への参加方法として三つの紹介されており、それはすべて生協の中だけで完結するものではなく、地域の方や様々な方とのかかわりや協力関係が重要になってくるとおっしゃっており、今日だけではなくこれまでの講義を聞いてこのことはかなり実感していました。また、コロナウイルスの拡大をはじめ、私たちの生活は日々変化しているため、それに対応した組合活動が必要であると感じました。そのためには、若い世代の意見や活動が必要だと思うので、そこで自分も関わりたいと感じました。特に私たちの世代は周りの人とのかかわりがSNS中心になっていて、希薄になりがちだと思うので、逆にSNSの良さを活用した組織活動をおこない、若い世代への浸透不足を克服するのがよいのではないかと感じました。

以上